

【各論 9 項目目】

情報通信研究機構の研究拠点それぞれについて、過去 5 年間における研究者の人数、研究成果、運営経費の額及び内訳をデータでいただきたい。併せて、何故全国に分散して研究を行わねばならないのかについて、その具体的な理由をご教示願いたい。

(1) 情報通信研究機構の研究拠点に関するデータについては、別添のとおり。

(2) 研究拠点は「研究センター」、「リサーチセンター」、「研究開発支援センター」に大別されるが、それぞれの役割については以下のとおり。

①「研究センター」

情報通信研究機構が行う基礎的・先端的な研究開発について、当該研究開発の特性に鑑み、その効果的かつ効率的な推進に適した地域に設置しているもの。例えば、宇宙通信等に関する研究開発を実施する「鹿島宇宙通信研究センター」については、電波干渉の少ない地域で通信実験等を行う必要があるため、障害物の無い太平洋に面した海岸に近く、静穏な電波環境下にある鹿島に研究センターを設置しているものである。

②「リサーチセンター」

情報通信研究機構が産学の研究者と共同して研究を行うことを目的として最適な場所を選定して設置しているもの。例えば、「仙台 EMC リサーチセンター」については EMC 分野で高い知識を有する研究者が同地に所在するなど、地域に点在する優秀な研究者を集結しやすくするよう、最も連携の取りやすい地域に設置しているものである。

③「研究開発支援センター」

民間では困難な施設を情報通信研究機構が整備し、共同利用型研究施設として運営しているもの。例えば「北陸 IT 研究開発支援センター」では、極めて実環境に近い仮想的なネットワークを実現する大規模なネットワークシミュレータを整備し、地域の大学や民間企業の研究者に広く活用されているところである。

このように、情報通信研究機構の研究拠点は、個別の研究開発の内容を踏まえ、最も効率的かつ効果的に業務を推進できると判断される地域

において設置しているものである。

研究センター・観測センター・計測技術センターの職員数、予算、主な活動実績等

名称	事項	平成１３年度	平成１４年度	平成１５年度	平成１６年度	平成１７年度
鹿島宇宙通信研究センター	職員数【名】	２７	２８	２５	２３	２４
	予算額【億円】	１１．２	８．１	５．５	４．９	４．３
	目的及び活動実績	災害時や山間部でも携帯端末で通話を可能とする移動体衛星通信技術、混雑する静止軌道上の衛星位置を精密に把握し交通整理を行う技術、e-VLBI と呼ばれる国際間ネットワークを用いて地球の姿勢を精密に計測する技術等の研究開発を実施				
		誌上論文 １８ 口頭発表 １４９ 特許登録 ２	誌上論文 ２１ 口頭発表 ２００ 特許登録 ７	誌上論文 １２ 口頭発表 １８４ 特許登録 １５	誌上論文 １３ 口頭発表 １３５ 特許登録 １４	誌上論文 １ 口頭発表 １５ 特許登録 １
横須賀無線通信研究センター	職員数【名】	２８	３２	４１	３４	３１
	予算額【億円】	１．０	１１．５	１０．６	１１．７	１１．７
	目的及び活動実績	誰もがあらゆる場所で使え、どんな通信機器ともつながる新世代モバイルネットワーク技術確立するため、高速・高機能モバイルネットワーク、ソフトウェア無線機、広帯域ミリ波通信システム、ウルトラワイドバンド無線通信システム、電磁環境適合性等に関する研究開発を実施				
		誌上論文： １８ 口頭発表： １３６ 特許登録： ４	誌上論文： ５２ 口頭発表： １７０ 特許登録： ２０	誌上論文： ２０ 口頭発表： ２９５ 特許登録： ２１	誌上論文： ３３ 口頭発表： １８７ 特許登録： ３４	誌上論文： ４ 口頭発表： １７ 特許登録： １
けいはんな情報通信融合研究センター	職員数【名】	２７	２８	２７	２４	２１
	予算額【億円】	１９．７	１９．０	２０．４	１７．１	１４．４
	目的及び活動実績	従来の装置やシステムの技術を中心にした考え方とは異なり何よりも人を中心にすえた情報通信技術確立するため、情報通信システムと人を取りもつヒューマンインターフェイス技術、コンテンツ処理・ネットワーク流通技術等に関する研究開発を実施				
		誌上論文： ４３ 口頭発表： ２９９ 特許登録： ２	誌上論文： ６６ 口頭発表： ２５８ 特許登録： １	誌上論文： ４６ 口頭発表： ３５５ 特許登録： ７	誌上論文： ５１ 口頭発表： ３５３ 特許登録： １１	誌上論文： ４ 口頭発表： １６ 特許登録： ０

関西先端研究センター	職員数【名】	46	44	42	40	39
	予算額【億円】	11.3	12.6	16.2	11.3	9.1
	目的及び活動実績	将来の情報通信の新たな種を創出するため、ナノ、バイオ、光技術といった最先端分野の融合による新たなICTに関する研究開発を実施				
		誌上論文：95 口頭発表：305 特許登録：0	誌上論文：159 口頭発表：386 特許登録：5	誌上論文：114 口頭発表：313 特許登録：11	誌上論文：150 口頭発表：399 特許登録：17	誌上論文：10 口頭発表：47 特許登録：3
平磯太陽観測センター	職員数【名】	10	7	7	7	5
	予算額【億円】	3.1	2.2	2.9	1.0	2.1
	目的及び活動実績	宇宙天気分野において電波の混信や大気揺らぎのため都市部では実施不可能な太陽光学・電波観測、太陽フレア等異常現象発生時の速報技術の開発・運用、宇宙環境観測衛星の搭載観測装置等に関する研究開発を実施				
		論文等3 学会発表等18	論文等1 学会発表等26	論文等3 学会発表等19	論文等3 学会発表等24	論文等2 (投稿中及び印刷中を含む)
沖縄亜熱帯計測技術センター	職員数【名】	8	8	8	7	6
	予算額【億円】	1.8	2.1	2.1	2.1	1.9
	目的及び活動実績	地球温暖化をはじめ地球規模の気候変動に大きく寄与する大気・海洋の相互作用のメカニズムを解明するため、海洋レーダ、ウィンドプロファイラ、降雨レーダ等の各種電波センサーの研究開発を実施するとともに、亜熱帯海洋性気候帯を中心とした大気・海洋観測を実施				
		論文等17件 口頭発表等38件	論文等17件 口頭発表等29件	論文等14件 口頭発表等26件 特許登録3件	論文等11件 口頭発表等28件 特許登録1件	論文等2件 (投稿中及び印刷中を含む) 口頭発表7件

【注1】 職員数は年度当初現在。

【注2】 予算額は当初予算。

【注3】 平成17年度の活動実績は6月現在。

リサーチセンターの職員数、予算、主な活動実績等

名称	事項	平成１３年度	平成１４年度	平成１５年度	平成１６年度	平成１７年度
赤坂ナチュラルビジョンリサーチセンター	職員数【名】	１０	１１	７	６	８
	予算額【億円】	１５．０	１．７	２．０	６．９	３．４
	目的及び活動実績	実物が目の前にあるときに限りなく近い色・光沢・質感を忠実に再現するナチュラルビジョンを実現するため、ナチュラルビジョン映像の収集・伝送技術、保存・分析・編集技術、多原色変換・表示技術、システム利用技術に関する研究開発を実施				
		論文等 １４ 口頭発表 ２９ 特許登録 ９	論文等 １５ 口頭発表 ２２ 特許登録 ６	論文等 １５ 口頭発表 ２０ 特許登録 １	論文等 １２ 口頭発表 １４ 特許登録 ３	――
本郷次世代ＬＥＯリサーチセンター／本郷光衛星通信技術リサーチセンター	職員数【名】	１０	９	９	１０	１２
	予算額【億円】	６．５	４．２	３．６	２．６	３．５
	目的及び活動実績	低軌道や中軌道の多数の衛星を用いた世界規模の衛星システムの大容量化、高度化に資するため、大容量の光衛星間通信により多数の衛星を宇宙空間でネットワーク化する光衛星間通信技術に関する研究開発を実施				
		論文等 ３０ 特許登録 ４	論文等 １８ 口頭発表 １３ 特許登録 １	論文等 １２ 口頭発表 ８ 特許登録 １	論文等 ２ 口頭発表 １３	――
横須賀ＩＴＳリサーチセン	職員数【名】	２２	１２	９	５	３
	予算額【億円】	１８．５	８．０	７．９	４．９	２．３

仙 台 高 感 度 電 磁 波 測 定 技 術 リ サ ー チ セ ン タ ー	職 員 数 【 名 】					5
	予 算 額 【 億 円 】					1 5 0 百 万 円
	目 的 及 び 活 動 実 績					漏洩電磁波の低減・防止 策の立案とその効果の 確認のため、情報通信機 器近傍から放射される 微弱で周波数帯域幅の 広い電磁波を高感度で 正確に測定するプロー ブや高感度電磁波測定 技術に関する研究開発 を実施

東 北 J G N II リ サ ー チ セ ン タ ー	職 員 数 【 名 】				2	3
	予 算 額 【 億 円 】				0. 3※	0. 4※
	目 的 及 び 活 動 実 績				次世代のネットワーク関連技術の一層の高度化や 多彩なアプリケーションの開発等のため、産学官 や地域と連携し、アプリケーション指向型運用管 理プラットフォーム技術に関する研究開発を実施	
					論文等 5 口頭発表 5	---
つ く ば J G N II リ サ ー チ セ ン タ ー	職 員 数 【 名 】				5	5
	予 算 額 【 億 円 】				0. 6※	0. 9※
	目 的 及 び 活 動 実 績				次世代のネットワーク関連技術の一層の高度化や 多彩なアプリケーションの開発等のため、産学官 や地域と連携し、高度H C I 技術を活用した適応 型サービス制御やG M P L S ネットワーク運用・ 管理技術に関する研究開発を実施	

					論文等 口頭発表	3 7	---
大手町 JGN IIリサ ーチセ ンター	職員数 【名】				3	3	
	予算額 【億円】				0.8※	1.2※	
	目的及 び活動 実績				次世代のネットワーク関連技術の一層の高度化や多彩なアプリケーションの開発等のため、産学官や地域と連携し、ネットワーク構築運用支援ツール群、広域高信頼ネットワーク接続性提供技術、IPv6機器検証評価手法等に関する研究開発を実施		
大阪J GNII リサ ーチセ ンター	職員数 【名】				口頭発表 1	---	
	予算額 【億円】				5	5	
	目的及 び活動 実績				0.5※	0.7※	
岡山J GNII リサ ーチセ ンター	職員数 【名】				論文等 口頭発表	2 4	---
	予算額 【億円】				3	3	
	目的及 び活動 実績				0.5※	0.5※	
					次世代のネットワーク関連技術の一層の高度化や多彩なアプリケーションの開発等のため、産学官や地域と連携し、次世代インターネット相互接続性検証に関する研究開発を実施		
					論文等	2	---

高知 JGN II リサーチセンター	職員数 【名】				2	2
	予算額 【億円】				0. 2※	0. 3※
	目的及び活動実績				次世代のネットワーク関連技術の一層の高度化や多彩なアプリケーションの開発等のため、産学官や地域と連携し、サラウンディング・コンピューティング技術に関する研究開発を実施	
					論文等 2	---
北九州 JGN II リサーチセンター	職員数 【名】				6	6
	予算額 【億円】				1. 9※	0. 8※
	目的及び活動実績				次世代のネットワーク関連技術の一層の高度化や多彩なアプリケーションの開発等のため、産学官や地域と連携し、ネットワーク計測に基づく適応経路制御技術、品質を考慮したシームレスな資源利用・割当て制御技術、多様性・可変性に適応するE2E通信制御技術に関する研究開発を実施	
					論文等 13 口頭発表 12	---

【注1】 職員数は非常勤を含む年度当初現在。

【注2】 予算額は当初予算。

※ 回線賃料等の共通的経費を除く。

支援センターの職員数、予算、主な活動実績等

名称	事項	平成１３年度	平成１４年度	平成１５年度	平成１６年度	平成１７年度
岩手ＩＴ研究開発支援センター	職員数【名】		２	２	１	１
	予算額【億円】		０．３	０．３	０．３	０．３
	目的及び活動実績		医療、福祉、教育、防災、伝統工芸等の地域住民の生活向上に貢献するコンテンツをネットワーク上で扱うための情報通信技術に関する研究開発に必要な設備を産学等に提供することにより、その研究開発を支援するとともに、東北地域における研究機関の集約による地域産業の振興に貢献			
			８プロジェクトが利用	１３プロジェクトが利用	１４プロジェクトが利用	――
北陸ＩＴ研究開発支援センター	職員数【名】		２	２	２	２
	予算額【億円】		０．７	０．７	０．７	０．５
	目的及び活動実績		次世代ネットワークに関するシミュレーション、解析等の研究開発に必要な設備を産学等に提供することにより、その研究開発を支援するとともに、北陸地域における研究機関の集約による地域産業の振興に貢献			
			２８プロジェクトが利用	２１プロジェクトが利用	３３プロジェクトが利用	――
北九州ＩＴ研究開発支援センター	職員数【名】		２	２	１	１
	予算額【億円】		０．６	０．６	０．６	０．６
	目的及び活動実績		大容量通信におけるＱoS制御に代表されるネットワーク／サービスの品質制御に関する制御方式や管理方式の高度化の研究開発に必要な設備を産学等に提供することにより、その研究開発を支援するとともに、北九州地域における研究機関の集約による地域産業の振興に貢献			
			９プロジェクトが利用	１６プロジェクトが利用	１９プロジェクトが利用	――

本庄情報通信研究開発支援センター	職員数【名】	3	3	3	1	1
	予算額【億円】	0.7	0.7	0.7	0.7	0.6
	目的及び活動実績	21世紀型産業の中核を担う情報通信分野で新技術・新事業の創出効果が見込まれる映像系ネットワークアプリケーション分野における研究開発に必要な設備を産学等に提供することにより、その研究開発を支援				
		16プロジェクトが利用	19プロジェクトが利用	17プロジェクトが利用	19プロジェクトが利用	---
横須賀GIS研究開発支援センター	職員数【名】	1	1	1	1	1
	予算額【億円】	0.3	0.5	0.6	0.6	0.5
	目的及び活動実績	GIS（地理情報システム）に関する研究開発に必要な設備を産学等に提供することにより、その研究開発を支援				
		8プロジェクトが利用	3プロジェクトが利用	5プロジェクトが利用	8プロジェクトが利用	---
沖縄情報通信研究開発支援センター（糸満、北谷）	職員数【名】	1	1	1	1	1
	予算額【億円】	0.3	0.3	0.1	0.1	0.1
	目的及び活動実績	21世紀型産業の中核を担う情報通信分野で新技術・新事業の創出効果が見込まれる映像系ネットワークアプリケーション分野における研究開発に必要な設備を産学等に提供することにより、その研究開発を支援するとともに、沖縄におけるICT産業の進出・育成の促進、ICT化推進による沖縄経済の振興に貢献				
		48プロジェクトが利用	17プロジェクトが利用	13プロジェクトが利用	16プロジェクトが利用	---

【注1】職員数は非常勤を含む年度当初現在。

【注2】利用料収入。平成17年度は見込み額。